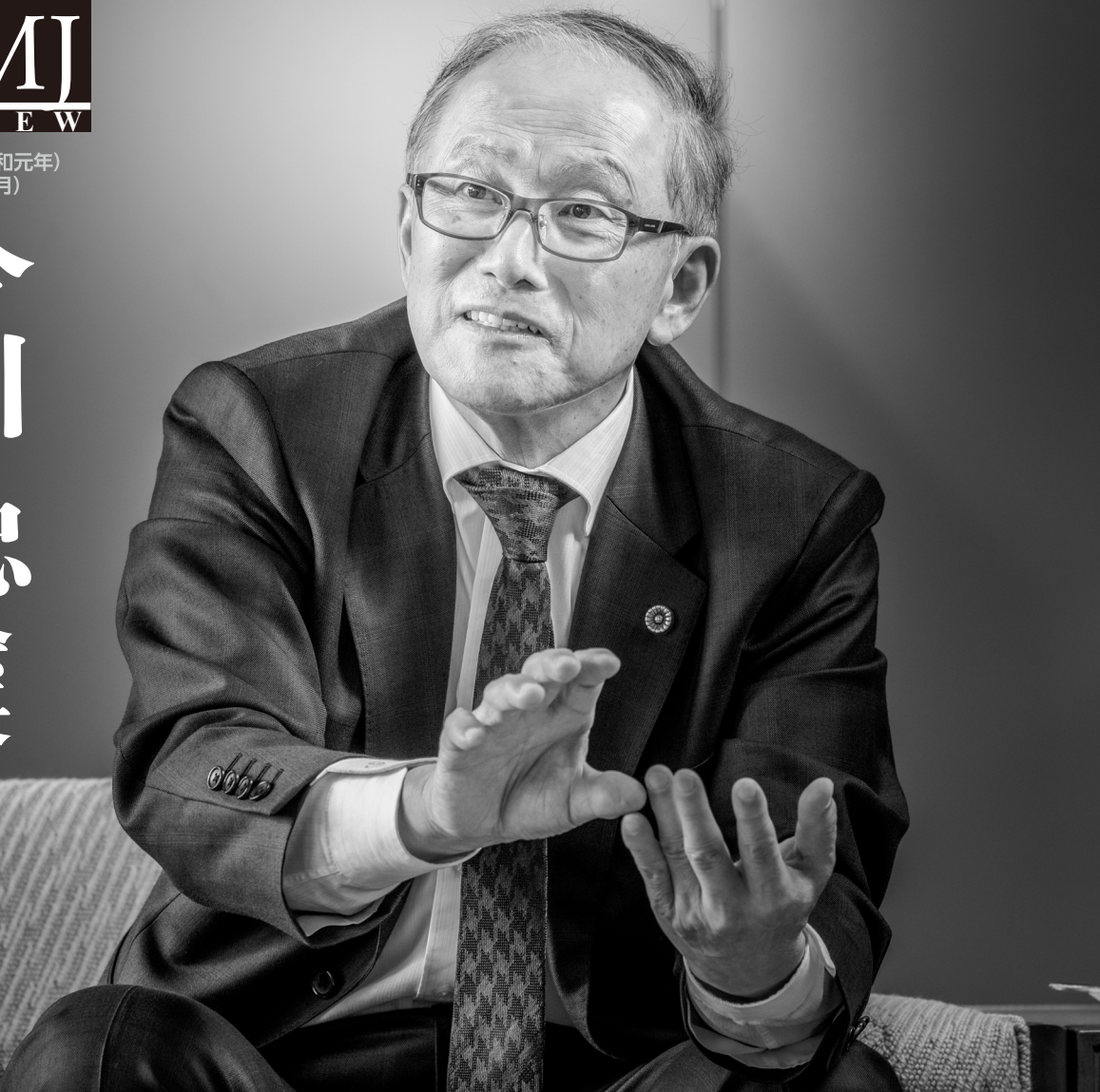


インタビュー日：2019年(令和元年)
11月25日(月)

今川 忠 会長 新春インタビュー



弁護士会の課題

—— 会長に就任された後、実感された弁護士会の課題は何ですか。

セーフティネットとしての弁護士会の役割をいかに果たすかです。例えば、成年後見人をつけないければならない場合で本人に資力がないとき、高齢社会になった我が国で、弁護士会がどう関与すべきかが問題になります。また、子どものいじめ問題で第三者委員会の委員の推薦を当会が求められた場合も、地方自治体においては委員の活動に適った予算手当のされ

ていない事例もあるようですが、少子化になった我が国で、弁護士会がどう関与すべきかが問題になります。さらに、外国人労働者が出入国管理法の改正で今後5年間で約30万人増えると言われていますが、在留資格が切れている場合でも、人権という観点からの対応が必要になるなどの課題があります。社会の歪の影響を受けた方々の救済のために、弁護士会において、何をすべきか、何ができるかが課題であろうと思います。

中小企業のアクセス障害の解決をどうするのかという課題もあり

ます。弁護士会が、個々の中小企業にアクセスするのは事実上難しいので、中小企業を束ねる団体と連携をとって、その団体を通して上手にアクセスできる道を拓くことを考えています。このアクセス改善が、弁護士の業務基盤の確立の一要素となると考えています。

それから、今年は「敷居は低いが質は高い」をテーマに上げていますが、誰でも弁護士が質を高める機会に接することができるようにしたいです。それは研修制度の充実だと思います。一例ですが、労働問題の中級程度の知識を得た

いと思う弁護士がいたときに、どのe-ラーニングを聞けばその需要に応えられるのかを分かり易くする工夫が必要だと考えています。この点は、まだ成果は出ておらず、次年度において引き続き取り組んでもらえればと思っています。

民事裁判のIT化について、令和2年2月から現行民訴法の下で弁論準備手続の争点手続等はウェブ会議でできることとなります。その先は、ペーパーレス化、そして書類の電子ファイル化等です。2月には、法制審議会に対し民訴法の大改正に関する諮問がされますので、大阪弁護士会の個々の会員が、裁判を受ける権利の保障、審理の充実という点から、法制審議会の議論に対し自分の問題として意見を言え、その意見をくみ上げる取組をしなければならぬと思います。

刑事司法の分野では、可視化対象事件の拡大とともに、大阪から声を上げている、取調べにおける刑事弁護人の立会権の導入という問題があります。これらは、刑事弁護の実践を通して、可視化実現の法制化を勝ち得た大阪弁護士会のパワーがありますので、若手会員にそのパワーが引き継がれ、大きな力として刑事弁護の実践がなされると考えています。

死刑廃止については、色々な考え方があってというのは私も十分理解していますが、昨年の12月9日の当会臨時総会において、死刑廃止決議が可決されましたので、今後は、これをどう広めていくかが問

題だと考えています。国会でも、与党野党を問わず参加している議員連盟ができていますので、そこへの働きかけが重要かと思いません。

弁護士自治のところでは、いくら自治・自治と叫んでみても、財政基盤が確立していないと、「貧すれば鈍する」ということになりますので、弁護士会の財政を分かり易く分析して、その現状を会員の方々にご理解していただく機会を設けたいと考えています。例えば、会財政が黒字になっているのは負担金会費があるからとか、また、南海トラフ地震による津波が来たとして、地下にある電源の復旧のための費用も考えていかなければならない等、そういう点から見ると、当会の財政は脆弱な面もあるということです。反対に、今のように負担金会費もある程度の収入が見込め、大きな支出としては大規模修繕だけという状況が続くなら、当会の財政は安定的という見方もありますので、多角的視点から当会の財政を考えていただければありがたいと思っています。

死刑制度廃止の総会決議について

—— 死刑制度廃止の総会決議を行って、弁護士会の立場を対外的に示すことにはどのような意義があるとお考えですか。

対内的及び対外的という意味で、2つの意義があると考えています。

基本的人権擁護の立場から色々な委員会活動を行っている当会

が、死刑制度廃止に関する総会決議をしたということは、日弁連内で非常にインパクトがあるというのが1点です。

それから、対外的には、これはどうしても立法しなければなりませんから、海外の様子を見ていても、世論は死刑存置であっても、そのときの政治家のリーダーシップで死刑廃止をしている国もありますので、そういう意味では先ほどの議員連盟に参加されている国会議員に対しても、大阪として話がし易くなるということです。

それから、当会の課題としては、機が熟している課題と、まだ十分会内討論ができていなくて、機の熟していない課題があります。死刑制度廃止については、その実現に向けて取り組むということが平成30年3月27日の常議員会で決議されていますし、それまで死刑廃止検討PTにおいて長い年月活動されていますし、京都コンGRESもありますので、色々悩みましたが、機は熟していると考え、総会決議に付そうということにしました。

リーダーシップ

—— 今川会長にはリーダーシップがあるので、副会長も仕事がやり易いのではないかと思います。

リーダーシップというよりも、機が熟したものをどういうふうに上手に成果として取り出すかという話ではないでしょうか。そこで難しい一例として、分野別登録弁

護士制度があると思います。マスコミ報道でも取り上げてもらったのですが、結局は登録している人がまだ約200人程度です。市民からのアクセス数も思ったより少ない。今後は、分野別登録弁護士制度を一生懸命やって、2〜3年後には検証をし、どうするかを検討しないといけないと考えています。その際には、重点取扱分野制度もありますので、分野別と重点取扱分野は何が違うのかとか、そのあたりの整理をどうするかもしていかないと。と思います。弁護士会が情報を発信するのは良いのですが、この情報を利用していただきたい市民の方々が、その情報をどのように受け止めているのか等を検証することが必要だと考えています。

——たとえばホームページの検索の仕方で、「分野別から選ぶ」というのをむしろメインにすれば、皆さんそっちから入っていただけますね。

ホームページも考えないといけない。ただ、ホームページの一番初めに出してもらいたいという要望が各委員会から出るでしょう。そのあたりの選別も重要なんですけどね。

「平和企画」について

——次に、本誌での「平和企画」についての思いをお聞かせください。

NHKのドキュメンタリー番組で、戦前、岐阜県の黒川村から旧満州に入植した開拓団が、終戦直後、身の安全を守るために、侵攻してき

たソビエト兵らに護衛してもらうかわりに、16〜18歳の未婚女性がソ連兵らに体を呈して皆を守って全員引き揚げてきたという番組がありました。その中で、90歳ぐらいになった女性が初めて、自らの体験を語り平和がいかに重要であるかということをおっしゃっていました。このように当事者の方が体験を語ることが非常に重要なのではないかと思ったのが1つです。

もう1つ意を強くしたのは、九州弁連大会が沖縄でありました。基地問題に取り組んでおられる弁護士から、朝10時から夕方5時ごろまでキャンプ・シュワブ、普天間という基地問題のこととか、平和祈念館付近の一番激烈な戦争があった場所の説明を聞きまして、歴史的な流れを聞いていくことは非常に重要だと思いました。また、ある人は、沖縄でも誰もが自分の経験を語り部として語るのではないということを話されていました。なぜかという、自分の親族も色々な苦しい目に遭っているから、自分の胸だけにしまっておくということらしいです。

しかし、黒川村の報道のように、そのような思いを持つ方があえて語る言葉には大きな感銘力がありますし、それを聞いて、人が、どう考えるか、どう行動するかという動機になるのではないかと考えています。

弁護士会活動への参加

——また、本年度は特集として各委員会の紹介記事を毎月掲載していますが、とりわけ若手会員の弁護士会活動への参加について何かお考えはありますか。

委員会活動というのは強制するものでもないし、自発的にやっていただくことなので、自分が委員会活動する時間があれば行ない、そのような時間がなければしないという、乗り降り自由な委員会活動でなければならないと考えています。自分に少し時間の余裕ができたなら委員会活動をする、例えば、10年委員会活動を何もやってこなかったけれども、こういうことをやりたいと思ったときにどこかの委員会に入れる、そういう委員会活動であればいいなと思っています。ただ、今は色々な委員会が専門化していて途中から入りづらい。若手会員だけでなく、10年、15年たった会員でも、自分が興味を持って委員会に入りたいと思ったときに、これを受け入れられるような委員会活動になればいいなと思っています。

——事務所の問題もあって、経営上そんなことをするなという事務所もあるようですし、若手会員も自分の収入が大変なので自由な時間をなかなか割きにくいということもあるようです。

その点も分かりますので、乗り降り自由な委員会活動ができるようになれば良いと考えています。委員会の中には、若い人が来ないと言って

困っているとか、若い人に活動を引き継いでいきたいんだと言われる委員会もあります。だから、こういう企画をすることによって、委員会において、その活動を紹介していただいて、何時でも入れますということを示していただいているのではないかと思います。

—— 歓迎していますと。

はい。委員会において、自分たちがきちんと新しい人を受け入れてやっていくということを自覚しアピールしていただくという意味でもよかったのではないかと思います。

本年度の副会長

—— 本年度の副会長はとてもチームワークがよくて、仲がよいように見えるのですが、会長自身が気を遣っている面も含めて、副会長に対して何かありますか。

副会長として、その経歴からして、十分な経験もお持ちですし、事務所経営をしておられますので、自分で考え、行動できる能力がある人たちばかりです。それで、自由にしたらいいんじゃないかと思いますが、私が言っていることは2つあります。

まず、何かをするにしても、ゴールを定め、何時までに何をするかを決めてくださいと言っています。そうじゃないと、大体先送りになりますからね。そして、できないものは何かということもちゃんと分けてくださいと言っています。

もう1つは、副会長は伝書鳩じゃないと。委員会で言われたこと

を正副会長会に持って来て、またそこで言われたら委員会へ持つて行くということではなくて、自分がこの委員会の議案を通したいと思うんだったら、委員会で十分議論して自分の意見も言って、ほかの人が反対するんだったらそれを説得する、副会長の仕事とはそういうものですよと言っています。例えば、自分はこういう分野は経験したことがないので、この分野のことは分かりませんというのは、通用しないのではないのでしょうか。しかし、副会長の方々は、そのような事は当然分かって会務を遂行されていますので、心強い限りで安心しています。

—— 結構厳しいですね。皆さんチームワークがよくてよかったですね。

私は、特段、厳しいとは思っていません。

副会長であれば、自分がやったことのないような委員会も担当しないといけないでしょう。委員会で専門の人が多かったら、人間はどうしても臆するところはありません。分らない点は教えてくださいと聞いて議論していけばいいので、分らないままにしていってしまうのがよろしくない。だから、自分の意見をきっちり言って、間違っていたら間違っていたで、また改めて議論をしていけばいいのではないのでしょうか。

しかし、外からチームワークがよいと見られていることは非常に

よかったと思います。副会長の先生方には感謝しております。

弁護士職務基本規程の改正

—— 会長は日弁連で弁護士職務基本規程の改正を担当されたそうですが、部分的には反対意見もあって、会内合意について何か思うところがありますか。

菊地会長の1年目のときに意見照会があって、そのとき私は大弁の常議員会で反対の意見を述べたことがありました。その意見照会の回答に対する検討については、私が副会長として担当しましたが、よくよく議論したら、実は大きく異なるものではないということが分かってきたのです。つまり、第三者の秘密は全部秘密保持義務の対象になるのではなく、例えば、依頼者が第三者の秘密について秘匿してもらいたいと表明したものに限るということが分かったのです。そこで、去年の8月の理事会から説明をして意見をいただき、去年の臨時総会に提案しようというところを始めたのです。しかし、今まで私自身が担当として丁寧な説明をしていませんでしたから、理事会において単位会に意見照会をすべきであるという意見が多数出ましたので、臨時総会に提案することを断念しました。この経験を通して、いくら正しいことであるという信念があっても、やはり会内合意形成をす

るときには、まず丁寧な説明が要ると、改めて認識しました。

—— 同じ「秘密」という言葉にしても、色々な立場から違う方向で考えていますからね。

そうですね。改正案を通したいのであれば、こう考えているんだということを執行部は丁寧に説明していかないとはいけません。これは本当に勉強させていただきました。会内の合意形成は、まず何時までにするのかという目標を立てて、年度内にできないのであれば、次年度に送るためには本年度内に何をすればいいのかということを考えていかないとはいけないんじゃないかということです。

ピアニストとの交流

—— 最後に、日経新聞にピアニストとの交流の記事が掲載されていましたが、会長のお好きな音楽やおすすめの音楽があれば披露していただけますか。

自称名誉後援会長をしていると紹介しました、吉川隆弘さんが12

月13日にサントリーホールでピアノ演奏されたので、妻と一緒に聞きに行きました。

もともと、私は友新会でカラオケに行っても音痴で通っていますから、音楽で蘊蓄を語る資格はありません。ただ、日弁連の副会長はカラオケのうまい人が多くて、懇親を込めて飲みに行っていました、最後に締めで皆で歌う歌が決まっています。山口百恵さんの「いい日旅立ち」でして、いい大人が皆で歌って明日の英気を養い、今日は解散と。

—— 東京に毎週行っていると、ご家庭への気遣いも必要なのは。

いやいや、そんなことは全然なくて、私は大体土曜日の昼ごろに東京から帰ってきてゆっくり過ごして、日曜日に、翌日にある当会の正副会長会の資料を全て読みますが、妻は何にも言いません。フリーです。「頭使い過ぎちゃう?」とか「いつ休んでんの?」とか、聞

くだけです。だから、東京で飲んでいるとはあまり言えない。

大阪と東京の往復

—— 大阪と東京を往復し、大量の資料を読みこなすのは大変でしょう。

楽しいですよ。小説とか色々な読み物を読むのも楽しいですが、日弁連の意見書は20ページあるかなしかなくらいですが、その意見書を理解しようと思うと、その下になったと思われるものから読んでいきます。例えば、針原先生がご担当で、日弁連の正副会長会に説明に来られた、公害対策・環境保全委員会の意見書などは今まで触れたことのないような内容ですので、このような新しいものに触れ、自分なりの意見を言えるということは、本当に楽しいです。

—— 今日はお忙しいところありがとうございます。

ありがとうございました。